

令和7年度

市政モニターアンケート調査結果
【 バリアフリーに関する調査 】



長 崎 市
土木企画課

1. 調査の目的

長崎市では、官民連携のもとで、多くの人が集まる都心地区や浦上地区を中心に道路や公共交通などのバリアフリー化を進めていますが、今後さらにバリアフリーを推進していくため、皆様の実感や体験に基づきご意見をいただいたものです。

2. 調査の概要

調査期間：令和7年7月22日 ～ 令和7年8月3日

送付数：269人

回答率：78.8% (212人)

(郵送回答 126人 インターネット回答 86人)

3. 調査結果

今回の調査で、特に「歩道」や「路面電車」、「バス」といった日常利用の多い移動手段においては、バリアフリー化の実感度が低い一方で期待度が高く、引き続き優先的なバリアフリー化が求められていることが明らかになった。

次に、「公園施設」のような無人施設での介助体制については、具体的なイメージがわきにくく、利用者がわかりやすく実感できるよう、案内サインや情報発信の工夫が必要であることが分かった。

また、ソフト面における「バリアフリーマップ」の認知度が低いものの、内容次第では利用したいと考える回答が多く、バリアフリー情報の充実を図ることや情報取得を容易にすることが課題であると分かった。

一方で、「行政施設」や「医療・福祉施設」などは、期待度が比較的高いと同時に実感度も高く、現状で一定の水準が認められることが明らかになった。

また、歩道や路面電車等の実感度が低い項目においても、過年度の調査結果から実感度が大きく増加しており、特定事業による整備効果が一定程度認められる結果となった。

さらに、「心のバリアフリー」に関する用語の認知度は、国土交通省が掲げる「バリアフリー法に基づく基本方針」で設定された2025年度末数値目標（50%）を上回る67%となり、バリアフリーマスタープランの策定等による周知効果も一定程度認められる結果となった。

4. 調査結果の見方

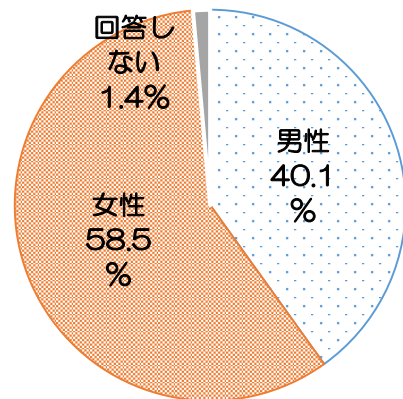
調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、回答者数に対する各選択肢の有効回答数の割合であるため合計が100パーセントを上回り、各選択肢においてどれだけの方が選択したかを分析して、横棒のグラフにより示しています。

なお、回答者数の異なる間については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

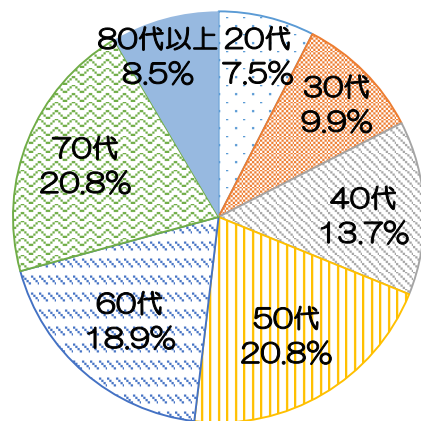
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答数	割合
男性	85	40.1%
女性	124	58.5%
回答しない	3	1.4%
合計	212	100.0%



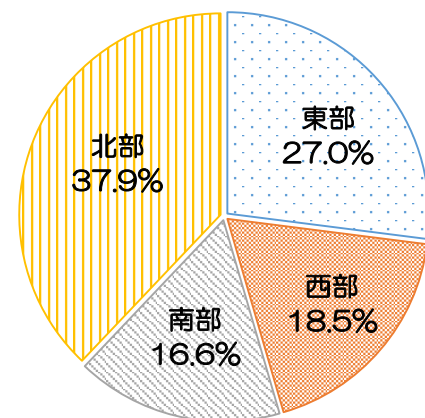
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答数	割合
20代	16	7.5%
30代	21	9.9%
40代	29	13.7%
50代	44	20.8%
60代	40	18.9%
70代	44	20.8%
80代以上	18	8.5%
合計	212	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答数	割合
東部	57	27.0%
西部	39	18.5%
南部	35	16.6%
北部	80	37.9%
合計	211	100.0%

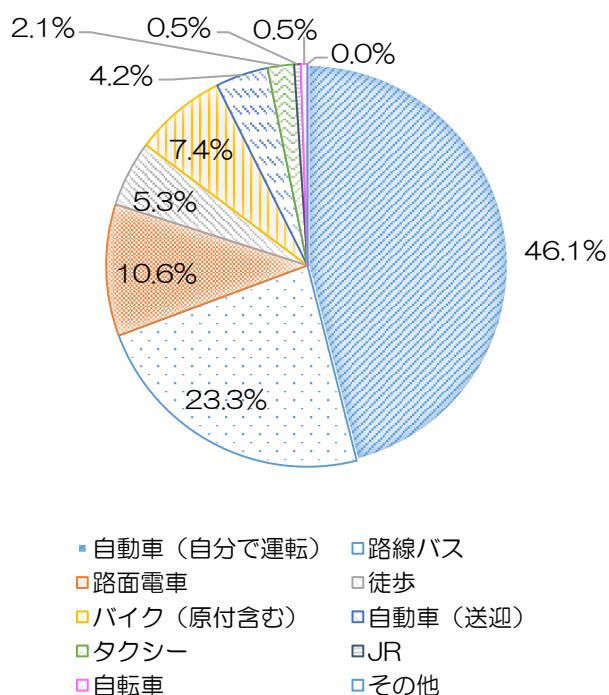


(無回答 1人)

※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

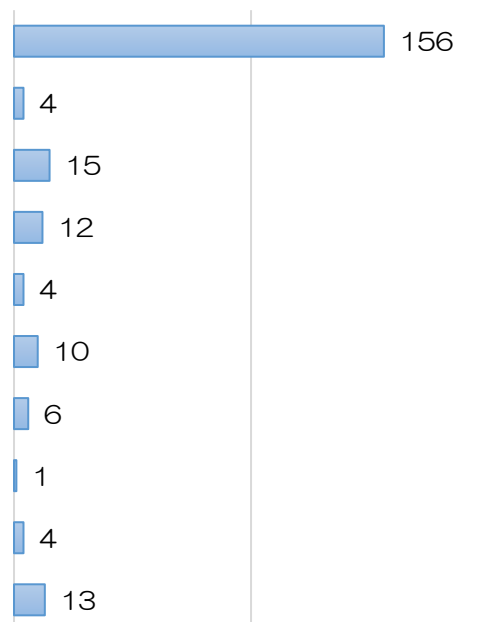
問24 あなたが日ごろ、最も多く利用している交通手段を1つ選択してください。

選択肢	回答数	割合
JR	1	0.5%
路面電車	20	10.6%
路線バス	44	23.3%
タクシー	4	2.1%
自動車（自分で運転）	87	46.1%
自動車（送迎）	8	4.2%
バイク（原付含む）	14	7.4%
自転車	1	0.5%
徒歩	10	5.3%
その他	0	0%
合計	189	100.0%



問25 あなたは、体に不自由なところがありますか。【複数回答可】

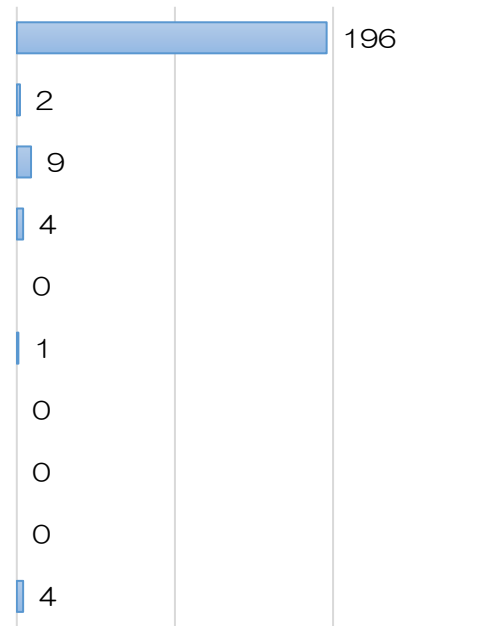
選択肢	回答数	割合
特にない	156	74.3%
妊産婦・子育て中	4	1.9%
足のケガ（慢性的な関節痛含む）	15	7.1%
歩行障害	12	5.7%
肢体不自由	4	1.9%
内部障害（臓器の障害など）	10	4.8%
聴覚・平衡機能障害	6	2.9%
音声・言語・そしゃく機能障害	1	0.5%
視覚障害	4	1.9%
その他（※高血圧、など）	13	6.2%



（回答者 210 人、有効回答数 225）

問26 あなたが外出時に利用する、移動や生活環境を補助する器具やサービスがあれば教えてください。

選択肢	回答数	割合
特にない	196	93.8%
車いす	2	1.0%
歩行器・杖	9	4.3%
補聴器・集音機	4	1.9%
白杖	0	0%
ベビーカー	1	0.5%
補助犬（盲導犬・介助犬）	0	0%
排泄補助器具	0	0%
介助者の付き添い	0	0%
その他	4	1.9%



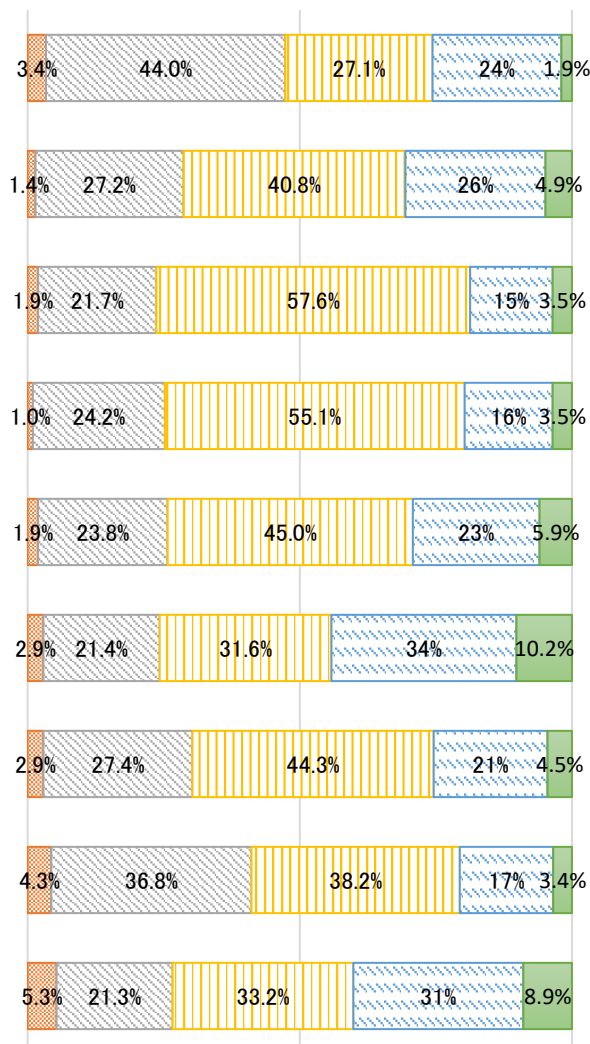
（回答者 209 人、有効回答数 216）

問27 あなたが長崎駅、浜町地区や浦上地区などの市内中心区を移動する際、下記の内容について、どの程度バリアフリー化（障害のある人や高齢者だけでなく、あらゆる人が生活の中で不便だと感じることを、様々な活動を行う際に障害となっているバリアをなくすこと）が進んだと思いますか。

1～5のうち該当する評価項目に○を付けてください。

		1	2	3	4	5
		十分進んだ	やや進んだ	どちらともいえない	あまり進んでいない	全く進んでいない
道路（歩道、交通安全）						
市内中心地区において、歩道の設置や拡幅、視覚障害者誘導用ブロックの設置、電線の地中化などを実施しております。						
歩道	歩きやすさ （段差、勾配、水たまり）	7	91	56	49	4
	人や車いすのすれ違いやすさ （幅の広さ）	3	56	84	53	10
	杖の使用しやすさ （グレーチング）	4	43	114	30	7
	視覚障害者誘導用ブロックの 利用しやすさ	2	48	109	32	7
	案内サインのわかりやすさ	4	48	91	47	12
	ベンチや休憩施設の利用の しやすさ	6	44	65	70	21
交通安全	横断歩道の通行しやすさ （エスコートゾーン※）	6	55	89	42	9
	横断歩道の通行しやすさ （音響式信号機）	9	75	78	35	7
	違法駐車・違法駐輪の防止活動	11	43	67	63	18

十分進んだ
 やや進んだ
 どちらともいえない
 あまり進んでいない
 全く進んでいない



※ エスコートゾーンとは、視覚障害者の方が安全かつ正確に横断するため、横断歩道に沿って設置するブロックのこと。

問28 あなたが乗り物（電車、バス、タクシー、旅客船）を利用する際に、下記の表の内容について、どの程度バリアフリー化が進んだと思いますか。

1～5のうち該当する評価項目に○を付けてください。

乗り物（電車、バス、タクシー、旅客船）		1	2	3	4	5	6						
乗り物の乗り降りをしやすくするため、低床車両の導入や車いすスペースの確保など、介助の受けやすい車両の導入を実施してきました。		十分進んだ	やや進んだ	どちらともいえない	あまり進んでいない	全く進んでいない	普段利用しないのでわからない						
電車 (JR)	車両の乗り降りのしやすさ	16	53	33	18	2	78	8.0%	26.5%	16.5%	9%	1.0%	39.0%
	優先スペースの利用しやすさ	16	43	35	20	1	85	8.0%	21.5%	17.5%	10%	0.5%	42.5%
	介助*の受けやすさ	10	24	46	20	2	94	5.0%	12.2%	23.5%	10%	1.0%	48.0%
路面電車	車両の乗り降りのしやすさ	8	54	52	37	10	45	4.0%	26.2%	25.2%	18%	4.9%	21.8%
	優先スペースの利用しやすさ	8	22	63	47	11	53	4.0%	10.8%	30.9%	23%	5.4%	26.0%
	介助*の受けやすさ	7	19	66	36	11	62	3.5%	9.5%	32.8%	18%	5.5%	30.8%
バス	車両の乗り降りのしやすさ	11	68	44	45	14	27	5.5%	32.5%	21.1%	22%	6.7%	12.9%
	優先スペースの利用しやすさ	10	45	56	46	12	34	5.0%	22.2%	27.6%	23%	5.9%	16.7%
	介助*の受けやすさ	7	26	66	43	13	46	3.5%	12.9%	32.8%	21%	6.5%	22.9%
タクシー	車両の乗り降りのしやすさ	10	51	56	25	4	59	5.0%	24.9%	27.3%	12%	2.0%	28.8%
	車いす乗車スペースの利用しやすさ	6	39	49	18	5	81	3.0%	19.7%	24.7%	9%	2.5%	40.9%
	介助*の受けやすさ	7	36	57	18	4	78	3.5%	18.0%	28.5%	9%	2.0%	39.0%
旅客船	船舶の乗り降りのしやすさ	5	13	39	11	2	126	2.5%	6.6%	19.9%	6%	1.0%	64.3%
	優先スペースの利用しやすさ	5	11	40	11	2	126	2.5%	5.6%	20.5%	6%	1.0%	64.6%
	介助*の受けやすさ	3	12	41	10	1	128	1.5%	6.2%	21.0%	5%	0.5%	65.6%

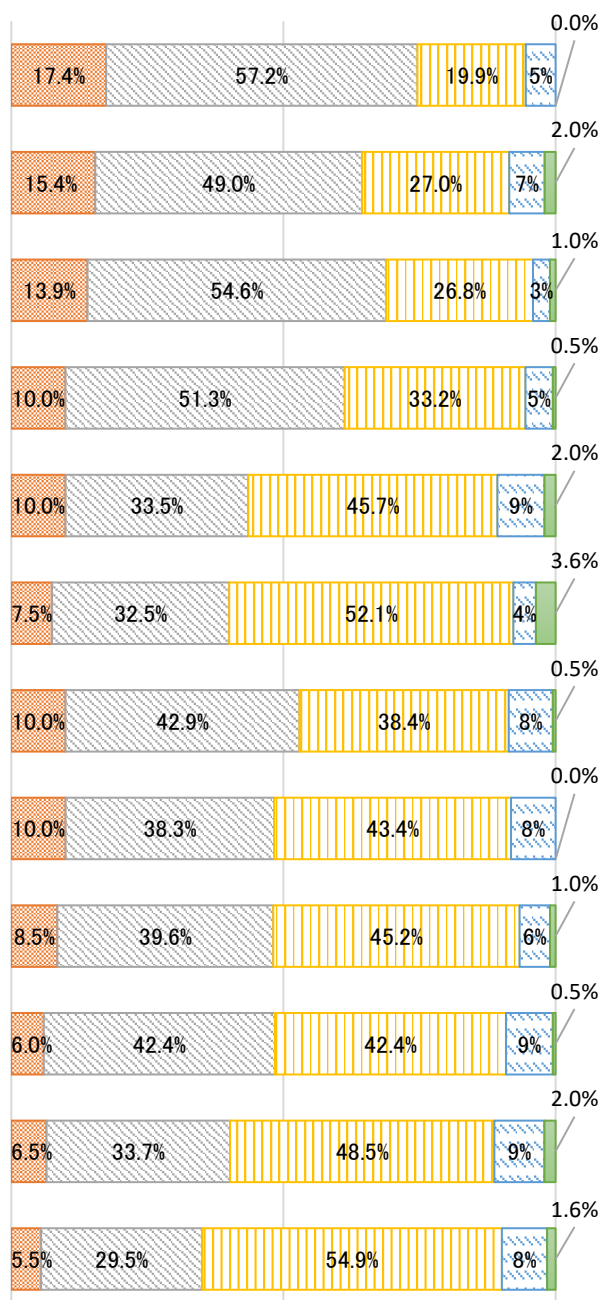
※ 介助とは、日常生活で困難を抱えている人が自立できるよう、具体的な動作を支援すること。

問29 あなたが施設（行政施設、駅など）を利用する際に、下記の表の内容について、どの程度バリアフリー化が進んだと思いますか。

1～5のうち該当する評価項目に○を付けてください。

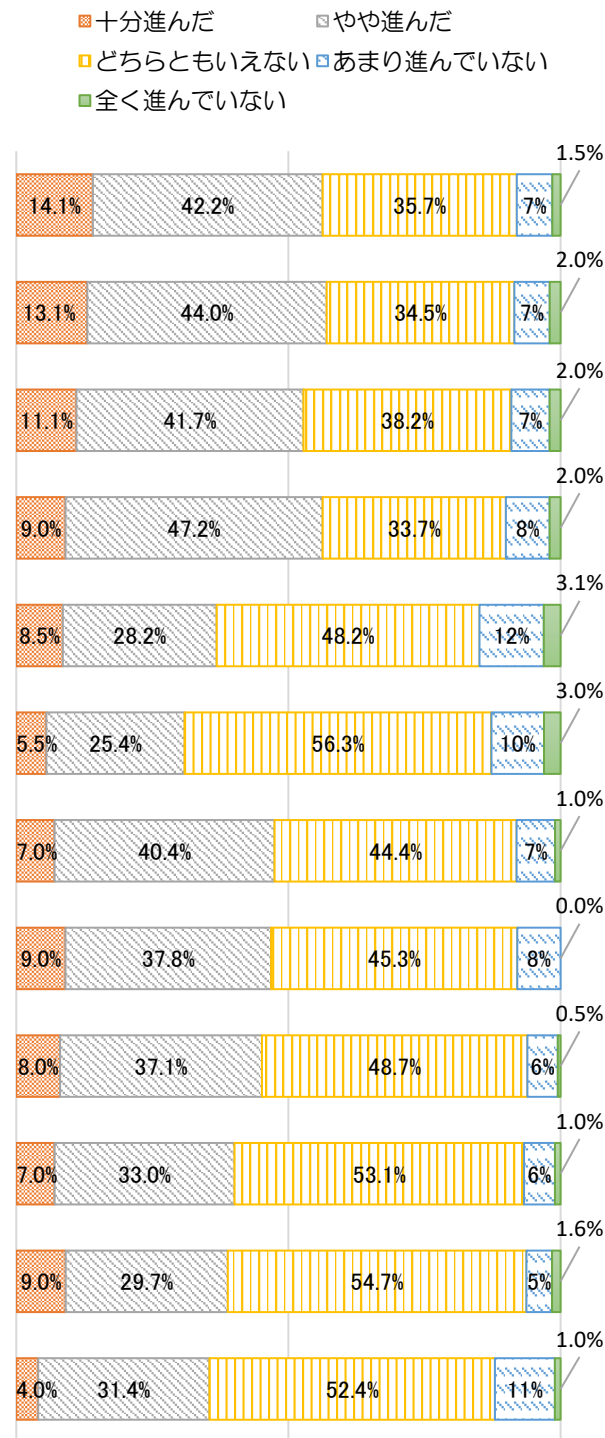
施設（行政施設、教育・文化施設、駅）		1	2	3	4	5
		十分進んだ	やや進んだ	どちらともいえない	あまり進んでいない	全く進んでいない
長崎市新庁舎における案内板や視覚障害者誘導用ブロックの設置、長崎駅電停におけるエレベーター設置などを実施してきました。						
行政施設 例) 市役所 警察署 裁判所等	通路、出入口の通行のしやすさ	35	115	40	11	0
	エレベーターなどの上下移動のしやすさ	31	98	54	13	4
	トイレや乳幼児用設備等の利用しやすさ	28	106	52	6	2
	案内板、サインなどのわかりやすさ	20	102	66	10	1
	駐車場の優先スペースの利用しやすさ	20	66	90	17	4
	介助※の受けやすさ	15	63	101	8	7
教育・文化施設 例) 図書館 公民館 公立学校 博物館等	通路、出入口の通行のしやすさ	20	85	76	16	1
	エレベーターなどの上下移動のしやすさ	20	75	85	16	0
	トイレや乳幼児用設備等の利用しやすさ	17	78	89	11	2
	案内板、サインなどのわかりやすさ	12	84	84	17	1
	駐車場の優先スペースの利用しやすさ	13	66	95	18	4
	介助※の受けやすさ	11	57	106	16	3

十分進んだ
 やや進んだ
 どちらともいえない
 あまり進んでいない
 全く進んでいない



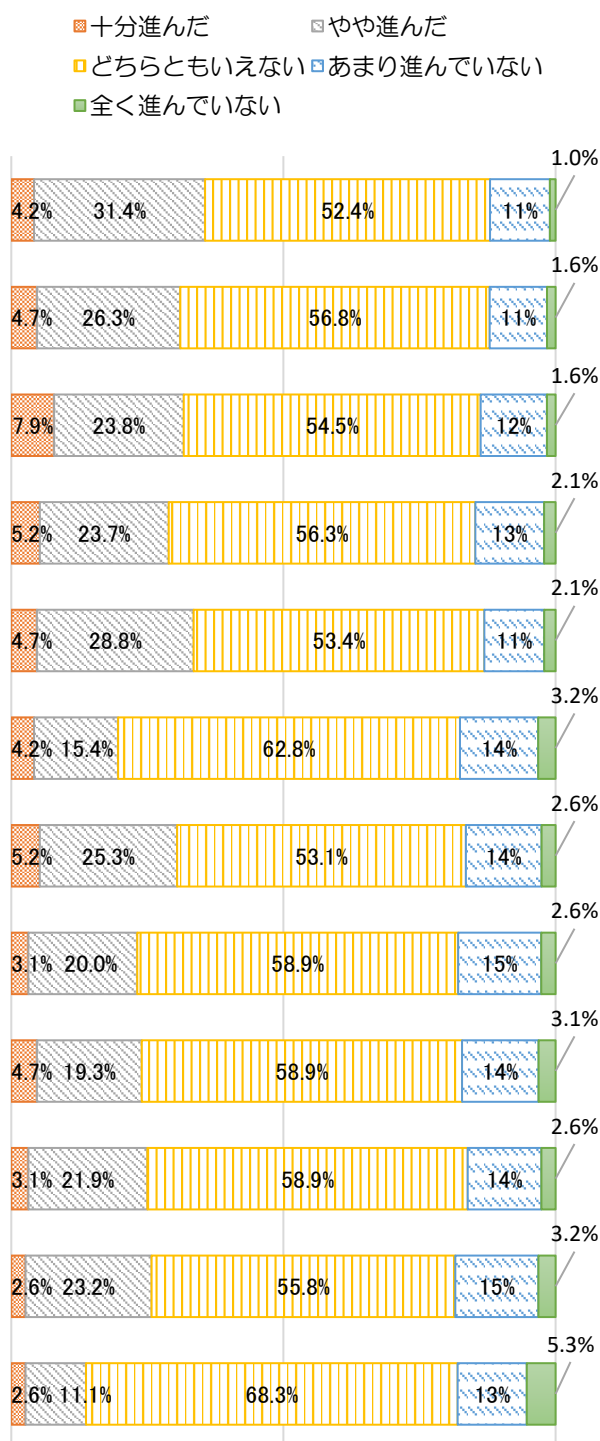
※ 介助とは、日常生活で困難を抱えている人が自立できるよう、具体的な動作を支援すること。

施設（行政施設、教育・文化施設、駅）		1	2	3	4	5
長崎市新庁舎における案内板や視覚障害者誘導用ブロックの設置、長崎駅電停におけるエレベーター設置などを実施してきました。		十分進んだ	やや進んだ	どちらともいえない	あまり進んでいない	全く進んでいない
駅	通路、出入口の通行のしやすさ	28	84	71	13	3
	エレベーターなどの上下移動のしやすさ	26	88	69	13	4
	トイレや乳幼児用設備等の利用しやすさ	22	83	76	14	4
	案内板、サインなどのわかりやすさ	18	94	67	16	4
	駐車場の優先スペースの利用しやすさ	17	55	94	23	6
	介助※の受けやすさ	11	50	111	19	6
医療・福祉施設	通路、出入口の通行のしやすさ	14	80	88	14	2
	エレベーターなどの上下移動のしやすさ	18	76	91	16	0
	トイレや乳幼児用設備等の利用しやすさ	16	73	96	11	1
	案内板、サインなどのわかりやすさ	14	64	103	11	2
	駐車場の優先スペースの利用しやすさ	18	57	105	9	3
	介助※の受けやすさ	8	60	100	21	2



※ 介助とは、日常生活で困難を抱えている人が自立できるよう、具体的な動作を支援すること。

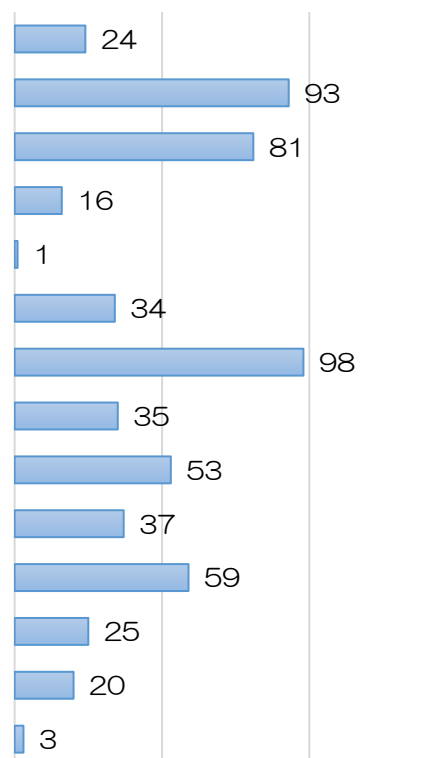
施設（行政施設、教育・文化施設、駅）		1	2	3	4	5
長崎市新庁舎における案内板や視覚障害者誘導用ブロックの設置、長崎駅電停におけるエレベーター設置などを実施してきました。		十分進んだ	やや進んだ	どちらともいえない	あまり進んでいない	全く進んでいない
例) 公共 駐車場	通路、出入口の 通行のしやすさ	8	60	100	21	2
	エレベーターなどの 上下移動のしやすさ	9	50	108	20	3
	トイレや乳幼児用設 備等の利用しやすさ	15	45	103	23	3
	案内板、サインなど のわかりやすさ	10	45	107	24	4
	駐車場の優先スペース の利用しやすさ	9	55	102	21	4
	介助※の受けやすさ	8	29	118	27	6
公園施設	通路、出入口の 通行のしやすさ	10	49	103	27	5
	エレベーターなどの 上下移動のしやすさ	6	38	112	29	5
	トイレや乳幼児用設 備等の利用しやすさ	9	37	113	27	6
	案内板、サインなど のわかりやすさ	6	42	113	26	5
	駐車場の優先スペース の利用しやすさ	5	44	106	29	6
	介助※の受けやすさ	5	21	129	24	10



※ 介助とは、日常生活で困難を抱えている人が自立できるよう、具体的な動作を支援すること。

問30 今後、特にバリアフリーを重点的に進めるべきと感じる項目を以下から最大3つまでお選びください。

選択肢	回答数	割合
電車（JR）	24	11.5%
路面電車	93	44.7%
バス	81	38.9%
タクシー	16	7.7%
旅客船	1	0.5%
行政施設	34	16.3%
歩道	98	47.1%
教育・文化施設	35	16.8%
商業施設	53	25.5%
駅	37	17.8%
医療・福祉施	59	28.4%
駐車場	25	12.0%
公園施設	20	9.6%
その他	3	1.4%



（回答者 208 人、有効回答数 579）

問31 問29において選択した項目について、具体的に改善して欲しい点について記述ください。（自由記述）

○道路に関する意見

- ・段差や斜面があったり、幅が狭かったりするため歩きづらい
- ・歩道両側につるつるしたタイルみたいなものが設置してあり、滑ったことがある。
- ・長崎は石畳が多く、歩きにくい。
- ・石畳風な歩道は見た目はよいが挟まり歩行しにくい。
- ・歩道、車道の白線が消えている。
- ・歩道に植木、バイクなどが置いていたりするためとおりにくい。

○公共交通機関に関する意見

- ・優先席がほとんどなかったり、優先スペースが利用しづらい。
- ・乗降口の段差が高い。また乗降口が狭いため、乗り降りしやすくして欲しい。
- ・バスの行き先をもう少しわかりやすくして欲しい

- 時刻表のデジタル化
- 車両によって降車ボタンが届きにくい場合がある。
- 乗り降りは改善されても、車中では席位置が上下（高低）になりかえって不自由
- 駅からバス乗り場までの距離が遠すぎる。
- 車椅子でバスに乗るために前日に車いす対応であるかの確認が必要。違ったら、乗りたかったバスに乗れない。予約が必要などところも不便。電車もバリアフリーの本数が少ない。
- タクシーなど、介護向けとなる車種が他県と比較して少ない
- バリアフリーの小型車両乗合式等があるとより公共交通機関のバリアフリーがすすむのでは
- どの程度介助をしてもらえるか不安。また、介助者もみかけない。

○休憩スペースに関する意見

- 施設に休憩所が少ないので、休憩所は必ず設置して欲しい。また屋外施設にはバス停を含み、屋根付きの休憩所が欲しい。
- 医療や福祉施設に椅子を用意し、花でも見ながら話すことができるような楽しい場所、解放的な空間を作って欲しい。
- 小さい子供連れ向けのミニ遊び場の設置など、親子の交流の場やシニアも含めた、ふれあいと情報交換ができる場所が欲しい。

○案内サインに関する意見

- 張り紙が多い、要領をまとめて大きな画面にして欲しい。
- 案内板、説明板を分かりやすく、目に入る位置に置いて欲しい

○トイレに関するご意見

- 公園施設のトイレ機能が使いづらい。
- 公園施設にトイレは必ず設置して欲しい。
- 学校のトイレを利用した際、車椅子利用に対応出来ていないところが多いと感じました。
- アーケード内、新地中華街にもトイレが欲しい。観光客用のお店に入らないとバリアフリー対応のトイレが無いいため不便である。

○公共駐車場に関する意見

- 障害者優先駐車場に標識だけ付けて、健全者が利用している。取締り、規制、罰則を設けて標識を掲示するだけで止めさせないで欲しい。
- 障害者用の駐車スペースが1台だけなのは少ないのではないか。障害者手帳など持っていないくても、駐車していいか悩む

○心のバリアフリーに関する意見

- 90歳近い高齢者になり、時代の変化（ソフト、ハード）についていけず、不安な日々を送ることになっています。「心のバリアフリー」の実現する社会になることを願っています。
- 場所もそうですが、人の教育も必要ではないかと思えます
バスも本数が少なくなった分、人が多く優先席も変わってもらえない。年配の方が座っているので、仕方ないと思いつつ、障害者の方が利用しづらくなったと思えます。

○その他の意見

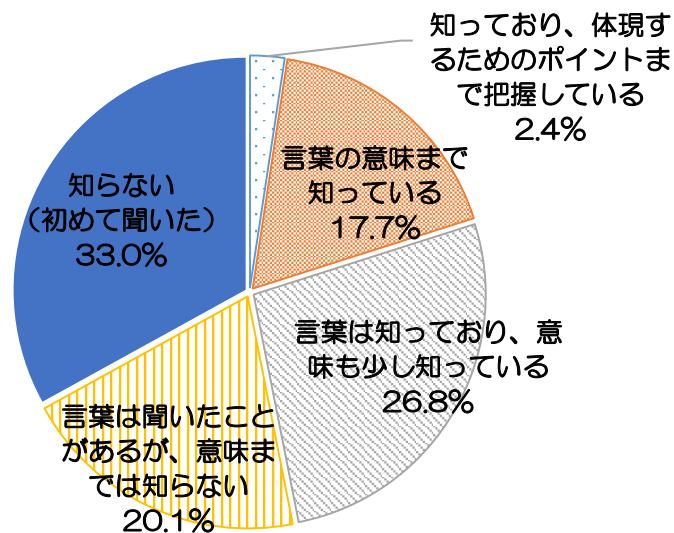
- 行政施設が完璧にバリアフリーを進めれば、市民の利用意識が高まり、民間サービスも充実するはず。行政が最高のサービスを提供するよう常に先頭でいて欲しい。
- 特定の学校だけが変化して多数の学校のバリアフリーが進んでいない。未だに自分が子供の頃のままで何の変化もない。ICT化は進んでいるが設備は古いまま。
- 車椅子だと観光しにくい箇所がある。入り口の段差や、一応中には入れるが不便な点が多々ある。雨が降ると観光しづらいし、夜も暗くて見にくい。
- 新しい施設などは整備されやすいが、以前からある分については、まだまだかなと思う。
- 路面電車の囲いがじゃまで見通しが悪く運転が怖い。バスの停留所の直前、直後に横断歩道があり停留に止まっているバスの横を通行するのが怖い。

問32 バリアフリーを進めていくには、公共交通機関や建築物などのいわゆるハードの整備を行うだけでは不十分であり、ソフト面での対応も重要である。

このソフト面対応の中核を「心のバリアフリー」（様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと）と定義しています。

あなたは、「心のバリアフリー」という言葉とその意味を知っていますか。

選択肢	回答数	割合
知っており、体現するためのポイントまで把握している	5	2.4%
言葉の意味まで知っている	37	17.7%
言葉は知っており、意味も少し知っている	56	26.8%
言葉は聞いたことがあるが、意味までは知らない	42	20.1%
知らない（初めて聞いた）	69	33.0%
合計	209	100%



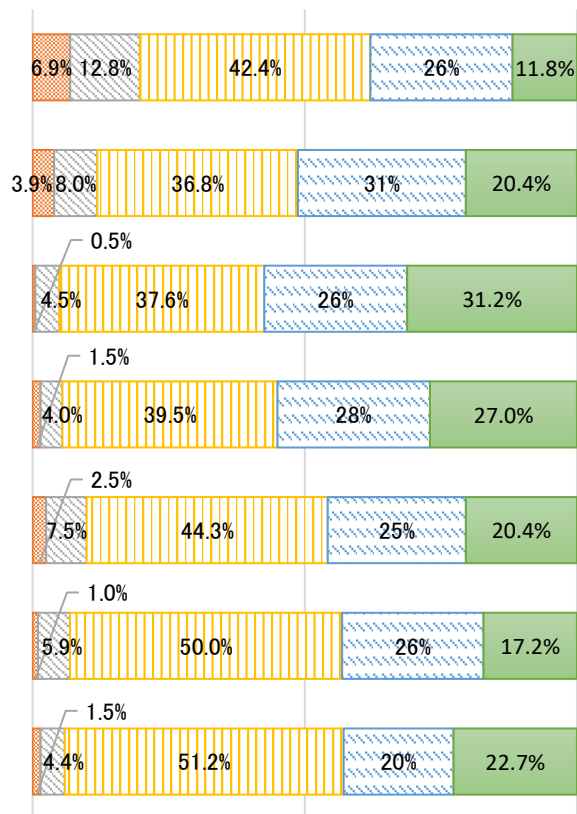
「心のバリアフリー」における用語の認知度は、国土交通省が掲げる「バリアフリー法に基づく基本方針」で設定されている2025年度末数値目標（50%）を上回る67%となり、バリアフリーマスタープランの策定等による周知効果が一定見られる結果となった。

問33 バリアフリーに関する取り組みとして、下記の研修や活動を実施してきました。

これらの取り組みにおけるあなたの関心度について、1～5のうち該当する評価項目に○を付けてください。

		1	2	3	4	5
取り組み（交通安全啓発、教育啓発、Web サイト）		よく知っていて参加・利用したことがある	知っていて、参加・利用したいと思っている	知らないが、内容次第では参加・利用したい	聞いたことはあるが、あまり関心がない	知らないし、特に関心もない
交通安全啓発	交通安全意識の啓発活動（家庭、学校、職場など）	14	26	86	53	24
教育啓発	手話通訳者養成研修	8	16	74	62	41
	要約筆記者養成研修	1	9	76	53	63
	盲ろう者向け通訳・介助員養成研修	3	8	79	56	54
	学校と連携して行う教育活動	5	15	89	51	41
Web サイト	バリアフリーマップ（市内バリアフリー情報）	2	12	102	53	35
	travel Nagasaki（観光地のバリアフリー情報）	3	9	104	41	46

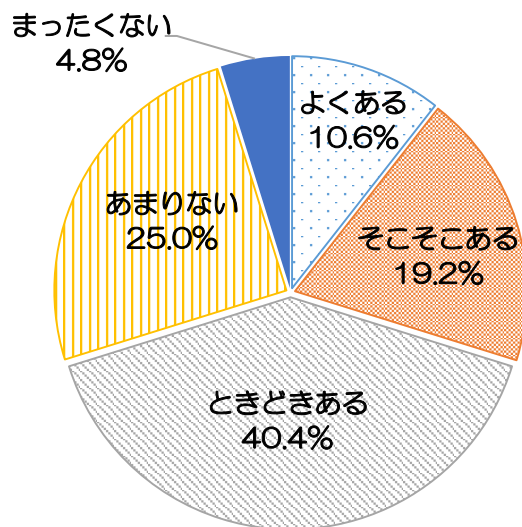
- よく知っていて参加・利用したことがある
- 知っていて、参加・利用したいと思っている
- 知らないが、内容次第では参加・利用したい
- 聞いたことはあるが、あまり関心がない
- 知らないし、特に関心もない



「バリアフリーマップ」の認知度が低いものの、内容次第では利用したいと考える回答が多く、バリアフリー情報の充実や情報取得の容易さが課題であることが明らかになった。

問34 あなたは、周囲で困っている人に対して、自ら声をかけたり、手助けした経験はありますか。

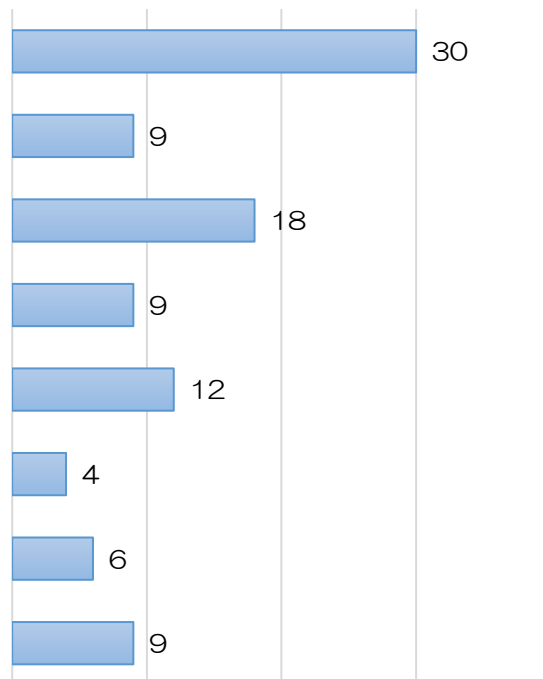
選択肢	回答数	割合
よくある	22	10.6%
そこそこある	40	19.2%
ときどきある	84	40.4%
あまりない	52	25.0%
まったくない	10	4.8%
合計	208	100%



他者とのコミュニケーションをとって行動しようとする人の割合は、原則100%を目標としているが、今回の調査で95.2%と高水準であることがわかりました。

問35 「心のバリアフリー」を広めるにあたり、どのような取り組みが必要だと思いますか。(自由記載)

選択肢	回答数	割合
高齢者、障害者、妊産婦等の当事者との交流で理解を深める	30	30.9%
メディア（政府広報、TV、WEB、広告等）での啓発	9	9.3%
学校等での教育	18	18.6%
社内研修・ワークショップ	9	9.3%
相談や情報を取得できる場所の創出	12	12.4%
施設内掲示物による啓発	4	4.1%
わからない	6	6.2%
その他	9	9.3%
合計	97	100%



問36 長崎市のバリアフリー施策に関し、良い点、改善すべき点、配慮して欲しい点についてお書きください。(自由記述)

意見の要約

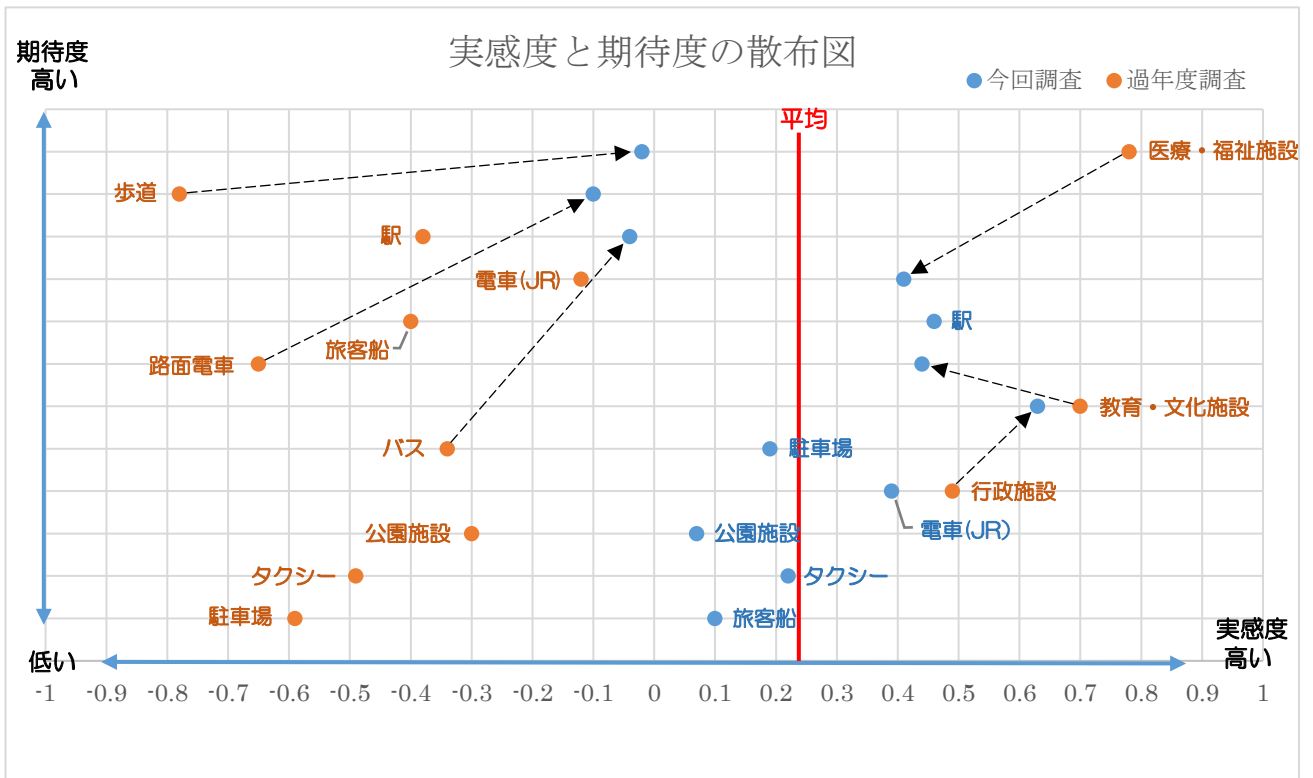
- 歩道に段差、傾斜、狭いところ、でこぼこしたところがあるため、改善して欲しい。
- 誘導ブロックのうえに車や物があるときがあるので、配慮して欲しい。
- 新しい施設ではバリアフリー化されているが、古い施設、小さな公園や普通の道、民間施設でもバリアフリー化して欲しい。
- 長崎市の施策がわからないので、広報ながさき等で発信して欲しい。
- 案内板をわかりやすくして欲しい。
- 施設や設備でバリアフリーに意識が向きすぎているところがある。
- 物を整備して終わりではなく、助け合える街の醸成が重要だと思う。
- 他者に対する優しいエピソードや考えを発信して欲しい。

《 参考 》 「問27～問30」の調査結果に基づき、項目ごとのバリアフリーに関する「実感度」と「期待度」について、散布図に表しました。

問27～問29：「どの程度バリアフリー化が進んだと感じますか」⇒「実感度」

$$\text{平均スコア} = \frac{\text{「十分進んだ」回答数} \times 2 + \text{「やや進んだ」回答数} \times 1 + \text{「あまり進んでいない」回答数} \times (-1) + \text{「全く進んでいない」回答数} \times (-2)}{\text{回答数} - \text{「普段利用しないのでわからない」}} \div \text{項目数}$$

問30：「特にバリアフリーを重点的に進めるべきと感じる項目」⇒「期待度」



全体的にバリアフリー化された実感は一定程度あるものの、特に「歩道」や「路面電車」、「バス」といった日常利用の多い移動手段においては、実感度が低い一方で期待度が高く、引き続き優先的なバリアフリー化が求められていることが明らかになった。

また、「公園施設」のような無人施設での介助体制については、具体的なイメージがわきにくく、実感度が平均を下回る結果となった。

一方、「行政施設」や「医療・福祉施設」などは過去の調査結果より下がるものの、期待度が比較的高く実感度も高いことから、現状一定の水準が認められることも明らかになった。

また、歩道や路面電車等の実感度が低い項目においても、過年度の調査結果から実感度が大きく増加しており、特定事業による整備効果が一定程度認められる結果となった。